

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4571800194
法人名	医療法人 豊寿会 川井田医院
事業所名	グループホーム 皇子原
所在地	宮崎県西諸県郡高原町大字西麓173番地3 (電話) 0984-42-2000
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 5月 28日

【情報提供票より】(21年5月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	17 人	常勤	16 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 16.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	平屋階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円

(4) 利用者の概要(5月11日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	10 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	75 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川井田医院 益山歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高原町のやや郊外で、霧島連山が一望できる景観に恵まれた比較的利便性の良好な場所にホームは立地している。併設して母体の医院とデイサービスがあり、相互に連携して運営が行われている。利用者の高齢化が進み地域密着型サービスの向上にかなり厳しい面があるが、重度化した場合の対応等について指針が示され、関係者全体が方針を共有しており、利用者・家族共に安心して生活している。利用者は職員の明るく思いやりのあるケアに支えられ、全員元気に暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	1号棟の食堂、居間が大きく改修され、利用者が居心地よく過ごせるように改善されている。また、地域密着型サービスの理念や研修機会の確保に前向きに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的について全職員で話し合い、全員が参加して自己評価を行い、評価を活かして改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域包括支援センター、民生委員、家族の代表等が参加して2か月に1回開催し、運営状況の報告や話し合いを行っている。今後の取り組みとして、外部評価、自己評価の報告や会議のメンバーに地域住民の代表を加えた幅広い立場の人が参加してもらえるよう、働きかけを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に出来るだけ声をかけ、意見や不満を表せる機会づくりに努めている。また、年に1回家族会を開き、家族同士の話し合いの中から意見や不満が出やすい雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くの中学校との交流やボランティアの受け入れ、近隣住民からの野菜の差し入れ等地域との交流がある。また、自治会への加入についても検討している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所全体としての基本的な理念はあるが、地域密着型サービスの役割を理解した理念とはなっていない。	○	地域密着型サービスの意義と役割を今一度全職員で話し合い、利用者が地域の中で安心して暮らし続けることが出来るよう事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎月の職員会議等で基本的な理念について話し合い理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの中学校との交流やボランティアの受け入れ、近隣住民からの野菜の差し入れ等地域との交流がある。また、自治会の加入についても検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的について全職員で話し合い、全員が参加して自己評価を行い、評価を活かして改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、包括支援センター、民生委員、家族の代表等が参加して2か月に1回開催し、運営状況の報告や話し合いを行っている。	○	運営推進会議では、外部評価や自己評価の結果や改善の取り組み状況等について報告や話し合いをしてほしい。また、会議のメンバーに地域住民の代表等、幅広い立場の人が参加してもらえよう、積極的な働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者や地域包括支援センターの職員と研修会等を通して交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態を詳しく報告している。また、遠方の家族には手紙で近況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時にできるだけ声をかけ、意見や不満を表せる機会づくりに努めている。また、年に1回家族会を開き、家族同士の話し合いの中から意見や不満が出やすい雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動や離職による利用者のダメージを防ぐため、3ユニットの全職員を定期的に配置転換させ、利用者が全ての職員と馴染みの関係が保てるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内の勉強会や研修にはある程度参加できているが、外部研修を受ける機会が若干少ない。	○	限られた職員体制の中で研修機会の確保はかなり厳しい面があるが、年間計画の中で研修を位置づけ、職員の質の確保、向上のために是非とも法人内外の研修に積極的に参加させてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム西諸地区連絡協議会の研修会に参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が自宅を訪問したり、利用者と家族がホームを見学してもらおう等徐々にホームの雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は一緒に雑談をしながら折り紙をしたり、民謡を歌ったりして楽しく過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者から利用者のこれまでの暮らし方や特技等の情報を収集し、また、日々の利用者の行動や表情の中から思いや意向を把握出来るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意向を取り入れ、職員の気づきや意見を反映した利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回モニタリングを行い、6か月に1回介護計画の見直しを行っている。	○	介護計画は、月に1回程度は本人や家族の意向や状況を確認、評価して、状況の変化に対応した随時の見直しと、3か月に1回の定期的な見直しを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の高齢者が状況に応じてショートステイが利用できる体制が出来ている。また、通院や外泊等も柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本にしているが、ほとんどの利用者が併設の母体医院を利用している。2週間に1回の往診もあり、気軽に相談や受診が出来る体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、利用開始時に看取りに関する指針を本人・家族に説明して同意を得ている。また、関係者全体で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	グループ全体で定期的に接遇研修を行っており、利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないように細心の配慮している。また、個人情報保護法の理解にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向やその日の体調に配慮しながら、自由に自分のペースで暮らせるように柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嗜好や希望に配慮し、季節感を大事にした食材を取り入れ、バランスの良い食事の内容となっている。一部の利用者は職員の介助を受けながら楽しそうに食事をしている。	○	高齢化が進み、介助の必要な利用者が多くなり厳しい面があるが、職員が一人でも利用者と一緒に楽しく食事が出来ないか検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回としているが、希望があればいつでも入浴を楽しめるように支援している。また、入浴を拒む利用者には清拭や足浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが有する力の範囲で、食事の準備の手伝いや洗濯物たたみ、はり絵、体操等負担にならない程度で支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高齢化が進み日常的な外出が厳しくなっているが、併設のデイサービスを訪ねたり、近隣の散歩や外食等、できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけていない。職員は鍵をかけることの弊害を理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、防災訓練を年2回定期的に行っている。マニュアルも作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量は毎日チェック表で管理している。また、母体医院の栄養士に指導を受けバランスの良い食事の内容となっている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1号棟の共用空間が全体的にゆとりのない感じであったが、食堂や居間が最近改修され、利用者が居心地よく過ごせるように大きく改善されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた日用品や仏壇、家族との思い出の写真等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるように工夫がされている。		